

令和 3 年 6 月 23 日現在

機関番号：47703

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K02225

研究課題名(和文)スコラ哲学における正義論の変遷 - トマス・アキナス以前・以後 -

研究課題名(英文)The Transition of a Theory of Justice in Scholasticism-before and after Thomas Aquinas-

研究代表者

佐々木 亘 (Sasaki, Wataru)

鹿児島純心女子短期大学・その他部局等・教授

研究者番号：40211940

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：トマス・アキナス以前としては、カンタベリーのアンセルムスとアキナスの比較研究を主に日本カトリック神学会で行い、学会誌を含む4本の論文を作成することができた。

アキナス以後の分野は、後期スコラと現代正義論に分かれる。後期スコラでは、パドヴァのマルシリウスとウィリアム・オッカムについて、それぞれ論文を1本作成した。

現代正義論では、アマルティア・センとマーサ・ヌスバウムのケイパビリティ・アプローチに関する研究を主に経済社会学会で行い、学会誌を含む5本の論文を作成することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

正義論に関して、中世の思想史的な意味だけではなく、ケイパビリティ・アプローチという、現代においておそらく最も注目されている分野にまで踏み込むことができたことには、思想史的にも、現代的にも、大きな学術的・社会的意義が認められよう。「何が正しいか」を明らかにすることは、個人の生き方にとっても、社会のあり方にとっても、きわめて重要な意味を有している。特に、アキナスの正義論は共同善への秩序のうえに成立しており、そこに現代的な可能性が認められる。

研究成果の概要(英文)：Prior to Thomas Aquinas, he conducted comparative studies of Anselm of Canterbury and Aquinas mainly at the Catholic Theological Society of Japan, and was able to produce four treatises, including the journal.

The fields after Aquinas are divided into late scholasticism and modern justice theory. In the late scholastics, he wrote one treatise each for Marsilius of Padua and William Ockham.

In modern justice theory, research on the capability approach of Amartya Sen and Martha Nussbaum was mainly conducted at the Society of Economic Sociology, and five treatises including the journal were able to be prepared.

研究分野：正義論

キーワード：正義論 ケイパビリティ・アプローチ トマス・アキナス カンタベリーのアンセルムス パドヴァのマルシリウス ウィリアム・オッカム アマルティア・セン マーサ・ヌスバウム

1. 研究開始当初の背景

現代は、経済学で「利他性」が議論されるようになるなど、逆の傾向がみられるとは言え、やはり個人主義と相対主義が強いように思われる。そのため、「何が正しいか」ということも相対的に捉えられているのではないだろうか。もちろん、正しいか否かを特定する根拠となるものに法があるが、トマス・アキナスの自然法のように、神の永遠法に基づくものであれば相対主義を超えられるとしても、法実証主義のような立場では、ある程度の相対化が避けられないであろう。

本研究は、このような認識のもと、スコラ哲学での正義論研究を通じて、何か現代的な研究につなげられないかという見通しをもって計画された。直接のきっかけは、2012年、京都大学学術出版会から刊行された『中世の哲学 ケンブリッジ・コンパニオン』という翻訳本の中で、「第一章 政治哲学」を担当したことである。これまでアキナスを中心に研究を進めてきたが、思想的に視野を広げる契機となった。パドヴァのマルシリウスとウィリアム・オッカムの法と正義に関する思想がアキナスと大きく異なっている点には驚愕させられた。まず、「マルシリウスにとってトマスの意味での自然法は存在しない」のであり、「人間は自分自身のために法を生み出し、そしてその法にしたがって正義を遂行する権力を生み出さなければならぬ」(427頁)。さらに、オッカムの場合、「自然本性的な権利にもとづいて、この権利をもって行為している個人は、彼の行為を彼自身によって正当化させたという意味において、「この自然本性的な権利は主観的である」(431頁)。

このように、両者はアキナスの自然法思想から異なっており、その結果、アキナスの正義論とは異質の正義を論じている。正義の超越的性格を前提にしているわけではないから、両者の正義は、人為的で主観的なものである。しかし、両者とアキナスの間に長い歴史の壁が存在しているわけではない。アキナスが没した1274年の後すぐにマルシリウスは生まれ(1275/80年)、オッカムは13年後の1287年頃誕生した。アキナスからマルシリウス、オッカムまでは60年ほどしかたっていない。かかる変容は、そもそも何に由来しているのだろうか。逆に、アキナスの正義論には、彼以前の思想家の正義論と比較して、どのような特質が認められるのか。そして、アキナス以前・以後における正義論の変遷は、現代のわれわれにどのような意味を持ちうるのだろうか。これらの問いに答えようとするのが、本研究開始当初の背景であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、スコラ哲学における正義論の変遷に関して、トマス・アキナスを軸に明示し、かかる変遷そのものが有する現代的な意義を探ることにある。カンタベリーのアンセルムス、ペトルス・アベラルドゥスからアキナスに、アキナスからパドヴァのマルシリウス、そしてウィリアム・オッカムへと、正義論はその基盤となる自然法論ないし法論とともに大きく変容していった。しかし、この変遷は、ある種の普遍性をもって、現代においても認められるように思われる。それは、極言するならば、正義に何らかの超越性を認めるか否かという主張が反映されている。「正義とは何か」という問いは、哲学を研究する者に対して、つねに突きつけられているのである。

この目的は、さらに三つに細分化される。A. アンセルムスからアベラルドゥス、アキナスにいたる正義論の変遷、B. アキナスからマルシリウス、オッカムにいたる正義論の変遷、そして、C. かかる変遷が有する現代的な意味である。

まず、Aでは主眼をアキナスの正義論に定め、「最高の本質について、それが正しいと言うのと正義であると言うのはまったく同じである」(『モノロギオン』古田暁訳、『中世思想原典集成7』、平凡社、1996年、83頁)というカンタベリーのアンセルムスや、「われわれが明らかに不正なのは、不正なことを実行することを欲しても、義しい罰の公平さに従うことは欲さないという、まさにこの点である」(『倫理学』大道敏子訳、『中世思想原典集成7』、平凡社、1996年、538頁)というペトルス・アベラルドゥスの主張が、どのような経緯をへてアキナスに影響を与えたのかなどを明らかにすることにより、アキナスの正義論をより厳密な仕方で提示することができよう。ただし、その後の研究でアベラルドゥスのうちにまとまった正義論が見られないということが明らかになったので、アンセルムスとアキナスの比較研究に集中することにした。

次にBでは、アキナスから、マルシリウスとオッカムにいたる流れを概観した上で、歴史的背景も加味しながら、アキナス、マルシリウス、そしてオッカムの正義論を比較検討することにより、後期スコラにおける正義論の変遷の内実を明示する。

最後にCでは、法と正義をめぐる、伝統的自然法論、近代的自然法論、法実証主義等との関係をも探りながら、スコラ哲学における正義論の変遷が有する現代的な意味を明らかにする。ここでは、ある方向性をヨハネス・メスナーのうちに見ることを予定していた。しか

し、**2017年3月**に名古屋工業大学で開催された科研費にもとづく正義論の研究会で、ヌスパウム研究で有名な神島裕子立命館大学教授の発表に触発され、直ちにヌスパウムのケイパビリティ・アプローチに関する研究に目的を絞った。

3. 研究の方法

当初は、テキストと研究文献に関する徹底的な分析という研究方法によって、以下のような単著の出版を目指していた。

スコラ哲学における正義論の変遷とその現代的意義

- トマス・アキナス以前・以後 -

序 正義論と自然法論

第一部 前期スコラから盛期スコラにおける正義論の変遷

第一章 中世哲学におけるスコラ哲学の位置づけ

第二章 アンセルムスからアベラルドゥスへ

第三章 アベラルドゥスからアキナスへ

第四章 アキナスにおける正義論

第二部 後期スコラにおける正義論の変遷

第一章 アキナスからマルシリウスへ

第二章 マルシリウスにおける正義論

第三章 オッカムにおける正義論

第四章 後期スコラにおける正義論の変遷

第三部 スコラ哲学における正義論の変遷とその現代的意義

第一章 スコラ哲学における自然法論と正義論

第二章 スコラ哲学における自然法論の現代的展望

第三章 スコラ哲学における正義論の現代的展望

第四章 スコラ哲学における正義論の変遷とその現代的意義

結論 自然法論と正義論の現代的展望

しかし、すぐに修正することとなった。まず、先に述べた理由で、**A**ではアベラルドゥスを研究の対象からはずし、アンセルムスとアキナスの比較研究を進めることになった。また、**C**でもケイパビリティ・アプローチの研究を全面的に進めることにした。**A**と**C**に注力したため、**B**の研究開始が遅れることになった。

4. 研究成果

・単著

1. 佐々木 亘 『トマス・アキナスにおける法と正義 - 共同体の可能性をめぐる - 』、教友社、**2019年**、**239**頁。

・研究論文

1. 佐々木 亘・佐々木 恵子 「ヨハネス・メスナーにおける家族共同体 - 自然法と家族の可能性について - 」 『鹿児島純心女子短期大学研究紀要』第**47**号、**2017年**、**1-10**頁。
2. 佐々木 亘 「永遠法の分有としての自然法 - トマス・アキナスにおける永遠法と自然法 - 」 『鹿児島純心女子短期大学研究紀要』第**47**号、**2017年**、**11-26**頁。
3. 佐々木 亘 「正義と連帯性 - トマス・アキナスにおける正義論の展望 - 」 『鹿児島純心女子短期大学研究紀要』第**48**号、**2018年**、**1-10**頁。

4. 佐々木亘「配分的正義の可能性 - トマス・アクィナスにおける神の正義 - 」、『鹿児島純心女子短期大学研究紀要』第 48 号、2018 年、11-25 頁。
5. 佐々木亘「アンセルムスによる神の存在証明 - トマス・アクィナスとの関連から - 」、『西日本宗教研究誌』第 6 号、2018 年、1-14 頁。
6. 佐々木亘「他者と共同善 - アクィナス正義論の現代的可能性 - 」、『経済社会学会年報』第 40 号、2018 年、106-116 頁。
7. 佐々木亘・佐々木恵子「自然法と人格 - アクィナス・メスナー・田中 - 」、『鹿児島純心女子短期大学研究紀要』第 49 号、2019 年、1-14 頁。
8. 佐々木亘「ケイパビリティのリスト - マーサ・C・ヌスパウムのケイパビリティ・アプローチ - 」、『鹿児島純心女子短期大学研究紀要』第 49 号、2019 年、15-30 頁。
9. 佐々木亘「アンセルムスとアクィナスにおける正義論 - 他者の可能性をめぐって - 」、『日本カトリック神学会誌』第 30 号、2019 年、28-48 頁。
10. 「ケイパビリティと自然法 - アクィナス・セン・ヌスパウム - 」、『経済社会学会年報』第 41 号、2019 年、98-109 頁。
11. 佐々木亘「正義と受容能力 - アンセルムスとアクィナス - 」、『鹿児島純心女子短期大学研究紀要』第 50 号、2020 年、23-36 頁。
12. 佐々木亘「ロビンスのケイパビリティ・アプローチ - ケイパビリティ・アプローチの強みと弱み - 」、『鹿児島純心女子短期大学研究紀要』第 50 号、2020 年、37-53 頁。
13. 佐々木亘「神と正義 - アンセルムスとアクィナス - 」、『日本カトリック神学会誌』第 31 号、2020 年、83-103 頁。
14. 佐々木亘「アクィナスの自然法とマルシリウスの人定法—中世的普遍体制の終焉—」、『西日本哲学年報』第 28 号、2020 年、1-18 頁。
15. 佐々木亘「ケイパビリティのリスト - アクィナス・セン・ロビンス - 」、『経済社会学会年報』第 42 号、2020 年、164-166 頁。
16. 佐々木亘「オッカムにおける教皇の権力 - アクィナスとマルシリウスとの比較から - 」、『鹿児島純心女子短期大学研究紀要』第 51 号、2021 年、1-17 頁。
17. 佐々木亘・佐々木恵子「吉満義彦における神秘論の可能性 - 近代の超克とアクィナス、そして AI - 」、『鹿児島純心女子短期大学研究紀要』第 51 号、2021 年、19-37 頁。

・ MISC

1. 佐々木亘「神島裕子著『正義とは何か 現代政治哲学の 6 つの視点』中央公論新社、2018 年」、『経済社会学会年報』第 41 号、2019 年、232-233 頁。
2. 佐々木亘「コラム トマス・アクィナスの正義論」、『世界哲学史』、ちくま新書、2020 年、60-61 頁。
3. 佐々木亘「アナログア・エンティス」、『新版 キリスト教大事典』、教文館、出版時期未定。

・ 学会発表

1. 佐々木亘「アンセルムスによる神の存在証明 - トマス・アクィナスとの関連から - 」、西日本宗教学会第七回学術大会、鹿児島大学、2017 年 3 月 26 日。
2. 佐々木亘「他者と共同善 - アクィナス正義論の現代的可能性 - 」、経済社会学会第 53 回全

国大会、名古屋学院大学、**2017年9月16日**。

3. 佐々木亘「アンセルムスとアキナスにおける正義論 - 他者の可能性をめぐって - 」、日本カトリック神学会第**30**回全国大会、上智大学、**2018年9月3日**。
4. 佐々木亘「ケイパビリティと自然法 - アキナス・セン・ヌスバウム - 」、経済社会学会第**54**回全国大会、慶應義塾大学、**2018年9月8日**。
5. 佐々木亘「アンセルムスとアキナスの正義論における他者の可能性」、科研費基盤研究(C)ワークショップ「中世における善と正義」、北海道大学、**2018年10月7日**。
6. 佐々木亘「ケイパビリティのリスト化は必要か - アキナス・セン・ヌスバウム - 」、鹿児島哲学学会平成三〇年度秋季大会、鹿児島大学、**2018年11月24日**。
7. 佐々木亘「法的正義と自然法 - トマス・アキナスにおける連帯性の根拠 - 」、京都ヘーゲル読書会平成三十年冬期研究例会、京都教育文化センター、**2019年1月13日**。
8. 佐々木亘「経済学におけるトマス・アキナスの現代的可能性 - ケイパビリティ・アプローチと自然法 - 」、第**258**回京大中世哲学研究会、京都大学、**2019年7月20日**。
9. 佐々木亘「神と正義 - アンセルムスとアキナス - 」、日本カトリック神学会第**31**回学術大会、鹿児島カテドラル・ザビエル教会、**2019年9月3日**。
10. 佐々木亘「ケイパビリティのリスト - アキナス・セン・ロビンズ - 」、経済社会学会第**55**回全国大会、熊本大学、**2019年9月7日**。
11. 佐々木亘「アキナスの自然法とマルシリウスの人定法 - 中世的普遍体制の終焉 - 」、西日本哲学学会第**70**回大会 九州大学 **2019年11月30日**。
12. 佐々木亘「ケイパビリティと正義 - アキナス・セン・後藤 - 」、経済社会学会第**56**回全国大会、**2020年10月10日**。
13. 佐々木亘「後期スコラにおける政治思想の展開 - アキナス、マルシリウス、そしてオッカム - 」、科研費基盤研究(B)研究会、**2020年11月29日**。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 佐々木 巨・佐々木 恵子	4. 巻 51
2. 論文標題 吉満義彦における神秘論の可能性 - 近代の超克とアキナス、そしてA I -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鹿児島純心女子短期大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 19-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 巨	4. 巻 51
2. 論文標題 オッカムにおける教皇の権力 - アキナスとマルシリウスとの比較から -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鹿児島純心女子短期大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 巨	4. 巻 42
2. 論文標題 ケイパビリティのリスト - アキナス・セン・ロビンズ -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済社会学会年報	6. 最初と最後の頁 164-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 巨	4. 巻 28
2. 論文標題 アキナスの自然法とマルシリウスの人定法 中世的普遍体制の終焉	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西日本哲学年報	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 巨	4. 巻 31
2. 論文標題 神と正義 - アンセルムスとアキナス -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本カトリック神学会誌	6. 最初と最後の頁 83-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 巨	4. 巻 30
2. 論文標題 アンセルムスとアキナスにおける正義論 - 他者の可能性をめぐって -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本カトリック神学会誌	6. 最初と最後の頁 28-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 巨	4. 巻 41
2. 論文標題 ケイバビリティと自然法 - アキナス・セン・ヌスパウム -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済社会学会年報	6. 最初と最後の頁 98-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 巨	4. 巻 50
2. 論文標題 正義と受容能力 - アンセルムスとアキナス -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鹿児島純心女子短期大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 23-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 巨	4. 巻 50
2. 論文標題 ロビンスのケイパビリティ・アプローチ - ケイパビリティ・アプローチの強みと弱み -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鹿児島純心女子短期大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 28-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 巨	4. 巻 6
2. 論文標題 アンセルムスによる神の存在証明 - トマス・アクィナスとの関連から -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『西日本宗教研究誌』	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 巨	4. 巻 40
2. 論文標題 他者と共同善 - アクィナス正義論の現代的可能性 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『経済社会学会年報』	6. 最初と最後の頁 106-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 巨・佐々木 恵子	4. 巻 49
2. 論文標題 自然法と人格 - アクィナス・メスナー・田中 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『鹿児島純心女子短期大学研究紀要』	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 巨	4. 巻 49
2. 論文標題 ケイバビリティのリスト - マーサ・C・ヌスパウム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『鹿児島純心女子短期大学研究紀要』	6. 最初と最後の頁 15-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 巨	4. 巻 48
2. 論文標題 正義と連帯性 - トマス・アクィナスにおける正義論の展望 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鹿児島純心女子短期大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 巨	4. 巻 48
2. 論文標題 配分的正義の可能性 - トマス・アクィナスにおける神の正義 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鹿児島純心女子短期大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 11-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 巨・佐々木 恵子	4. 巻 47
2. 論文標題 ヨハネス・メスナーにおける家族共同体 - 自然法と家族の可能性について -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 鹿児島純心女子短期大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 巨	4. 巻 47
2. 論文標題 永遠法の分有としての自然法 - トマス・アクィナスにおける永遠法と自然法 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 鹿児島純心女子短期大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 11-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 佐々木 巨
2. 発表標題 後期スコラにおける政治思想の展開ーアクィナス、マルシリウス、そしてオッカムー
3. 学会等名 科研費基盤研究 (B) 研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐々木 巨
2. 発表標題 ケイパビリティと正義 - アクィナス・セン・後藤ー
3. 学会等名 経済社会学会第56回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐々木 巨
2. 発表標題 経済学におけるトマス・アクィナスの現代的可能性 - ケイパビリティ・アプローチと自然法 -
3. 学会等名 第258回京大中世哲学研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木 亘
2. 発表標題 神と正義 - アンセルムスとアキナス -
3. 学会等名 日本カトリック神学会第31回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木 亘
2. 発表標題 ケイバビリティのリスト - アキナス・セン・ロビンズ -
3. 学会等名 経済社会学会第55回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木 亘
2. 発表標題 アキナスの自然法とマルシリウスの人定法 - 中世的普遍体制の終焉 -
3. 学会等名 西日本哲学会第70回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木 亘
2. 発表標題 アンセルムスとアキナスにおける正義論 - 他者の可能性をめぐって -
3. 学会等名 日本カトリック神学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木 亘
2. 発表標題 ケイバビリティと自然法 - アクィナス・セン・ヌスパウム -
3. 学会等名 経済社会学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木 亘
2. 発表標題 アンセルムスとアクィナスの正義論における他者の可能性
3. 学会等名 科研費基盤研究(C)ワークショップ(北海道大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木 亘
2. 発表標題 ケイバビリティのリスト化は必要か - アクィナス・セン・ヌスパウム -
3. 学会等名 鹿児島哲学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木 亘
2. 発表標題 法的正義と自然法 - トマス・アクィナスにおける連帯性の根拠 -
3. 学会等名 京都ヘーゲル読書会平成三十年度冬期研究例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木 亘
2. 発表標題 他者と共同善 - アクィナス正義論の現代的可能性 -
3. 学会等名 経済社会学会第53回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐々木 亘
2. 発表標題 アンセルムスによる神の存在証明 - トマス・アクィナスとの関連から -
3. 学会等名 西日本宗教学会第七回学術大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 佐々木 亘	4. 発行年 2019年
2. 出版社 教友社	5. 総ページ数 239
3. 書名 トマス・アクィナスにおける法と正義 - 共同体の可能性をめぐる -	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------